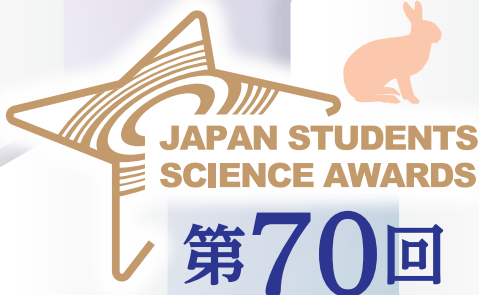


未来を創るのは君の発見！



# 日本学生科学賞

## 募集要項

日本学生科学賞は、中学生・高校生を対象にした歴史と伝統のある日本一の科学コンクールです。  
未来につながる科学から、身近にある疑問を解く研究まで大歓迎。  
高校生には、ISEF（国際学生科学技術フェア）へ代表出場するチャンスもあります。

**募集分野** 物理、化学、生物、地学、広領域、情報・技術、応用数学

**募集期間** ホームページの問い合わせ窓口からご確認ください。

**2026年日程** | 地方審査の詳細は、ホームページの問い合わせで確認ください。

**地方審査** —— 9月～10月



総合型選抜  
の大学受験資格

内閣総理大臣賞  
賞金50万円  
賞金総額 約600万円

入賞特典

国際大会  
ISEFへの  
代表出場  
応募作品から選抜

主催 読売新聞社 協賛 AsahiKASEI

共催:全日本科学教育振興委員会、科学技術振興機構 後援:内閣府、文部科学省、環境省、特許庁

# 概要

1957年に始まった日本学生科学賞は、中学生、高校生を対象にした歴史と伝統のある日本最高峰の科学コンクールです。昨年の第69回大会では、全国の中学・高校から約7万5千点の研究作品の応募がありました。

今大会でも、身の回りの小さな疑問や不思議の解明、教科書に書かれている学説に対する疑問の解決などについて、個人、もしくは生徒が共同で行った作品を募集します。学校の課題研究の発表も歓迎。「科学する心」が伝わる研究作品を強く期待します。

## 応募資格

中学・高校の生徒。国・公・私立は不問。  
高等専門学校、定時制高校の生徒は3年生まで。

### 賞

楯と副賞（研究奨励金）が贈られます。

#### 内閣総理大臣賞

2点 ……中学・高校から各1点  
副賞 50万円

#### 文部科学大臣賞

4点 ……中学の個人・共同研究から各1点  
高校の個人・共同研究から各1点  
副賞 30万円

#### 環境大臣賞

#### 科学技術政策担当大臣賞

いずれも2点 ……中学・高校から各1点  
副賞 30万円

#### 全日本科学教育振興委員会賞

#### 読売新聞社賞

#### 科学技術振興機構賞

#### 日本科学未来館賞

#### 旭化成賞

いずれも2点 ……中学・高校から各1点  
副賞 20万円

※上記の賞は「該当研究無し」という場合もあります。  
※文部科学大臣賞以外の各賞は個人・共同研究の区別はありません。  
※研究奨励金は受賞者または在籍校に贈られます。

## 募集分野

物理、化学、生物、地学、広領域、  
情報・技術、応用数学

※広領域は複数の分野にわたる研究など。  
※情報・技術、応用数学は中央審査のみ。

### 入選

楯が贈られます。

1等 20点…中学・高校から各10点

2等 20点…中学・高校から各10点

3等 22点…中学・高校から各11点

※入選点数は若干の増減があります。

### 特別賞

楯と副賞（研究奨励金）が贈られます。

#### 学校賞

これまで、本賞で優秀な成績を残している学校や、科学教育に熱心に取り組み、成果を上げている学校などに授与されます。

2校…中学・高校各1校  
副賞 20万円

#### 指導教諭賞

これまで、本賞を通じて長年にわたり科学教育に貢献してきた教諭の中から、顕著な功績をおさめられた方に授与されます。

若干名  
副賞 20万円

※「該当校、教諭無し」という場合もあります。  
※学校賞の研究奨励金は受賞校に、指導教諭賞の研究奨励金は受賞者に送られます。

高校生が中央最終審査で上位入賞すると、**学校推薦型選抜や総合型選抜の受験資格**が得られるほか、**ISEF2027**へ出場できるチャンスがあります。

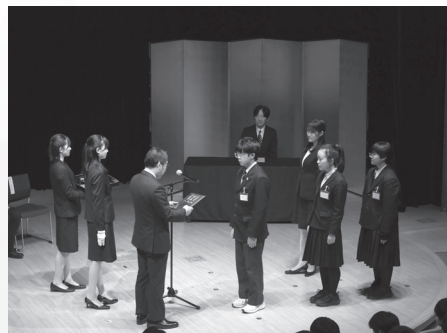
## 大学の入試で合格者続々!!

2026年の入試では、東京大学（理学部）、慶應義塾大学（総合政策学部・環境情報学部など）、早稲田大学（先進理工学部）、大阪大学（理学部など）、神戸大学（工学部）、筑波大学（医学群医学類）、名古屋大学（理学部生命理学科）などで、入賞者に学校推薦型選抜や総合型選抜の受験資格が得られました。

近年、日本学生科学賞の受賞者が東京大学や大阪大学に合格するなど、多くの入賞・入選者が、国公立・私立大学に挑戦しています。詳しくは各大学にお問い合わせください。

## 日本代表として世界に挑戦

世界最大の学生科学コンテストISEF（国際学生科学技術フェア）へ日本代表として出場するチャンスがあります。詳しくは7ページをご覧ください。



第69回大会中央表彰式の様子

ISEF2025の記事はこちらから

<https://event.yomiuri.co.jp/jssa/abroad>

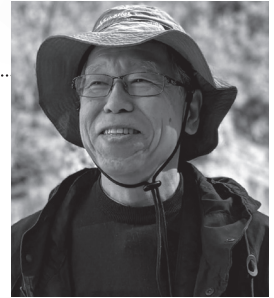


## 中央審査委員(総合委員)

※このほか、中学、高校教諭をはじめとした審査委員(専門委員)約40人が審査を行います。 ※2026年4月1日現在

## 審査委員長

大路樹生 名古屋大学 名誉教授(古生物学・海洋動物学)



## 研究を始める前に

私たちの生活は、多くの優れた科学研究の成果の上に成り立っています。優れた研究は、論理的で合理的な考えに基づいて行われています。一方、間違っただけの思い込みや不正確な判断、公正でない方法で行われた研究は、誤った結果につながり、場合によっては社会に混乱をきたすこともあります。中高生の皆さんにとっても、公正で誠実な態度、合理的な考え方をもち、研究に取り組むことは非常に大切なことです。

研究を始めるにあたっては、まず、これまでに何が分かっているか、何が分かっていないかを、信頼性の高い情報が掲載された文献や書籍、データベースなどで確認しましょう。その上で、研究計画を立てます。きちんと計画を立てることが、筋道の立った論理的な研究につながります。

実験操作および結果は実験ノートに正確に記載し、必要な時にすぐにデータを確認できるようにしましょう。その際、データのねつ造、改ざん、盗用は絶対に行ってははいけません。

また、機械や器具、薬品などは安全に取り扱うよう、十分に注意して下さい。研究内容によっては法律や規則などに反しないような配慮も必要になります。

人を対象とする調査、研究では、人に危害を加えないような配慮のほか、個人情報特定されないよう保護することなども必要になります。

野外での調査研究では、自身の安全に注意するとともに、対象となる生物や自然環境への影響を最小限にとどめるようにしてください。

昆虫や哺乳類など動物を使った実験も注意が必要です。生命の尊重、動物愛護の観点から、関連する法律や規則に従うとともに、動物実験に関する国際的な規則などに反することがないようにしましょう。

実験や内容によっては、大学や研究機関の専門家の指導、助言が必要で、これを怠った場合には優れた研究成果でも国際的には発表できないことがあります。

研究にあたっては、中高生だけでなく、指導にあたる先生方もぜひこのような点にご配慮ください。素晴らしい研究作品の応募を心から願っています。

日本学生科学賞中央審査委員一同

## 審査委員(順不同)

佐野雅己 東京大学 名誉教授(物理学)

松川 宏 青山学院大学 理工学部 教授(物理学)

柳澤実穂 東京大学 大学院総合文化研究科 准教授(物理学)

西口大貴 東京科学大学 理学院 准教授(物理学)

村田 滋 東京大学 名誉教授(化学)

西原 寛 山梨大学ゼロエミッションみらい研究センター 特任教授(化学)

藤井正明 中央大学 研究開発機構 機構教授(化学)

高橋正征 日本科学協会 会長(生態学)

堀 良通 茨城大学 名誉教授(植物学)

町田武生 埼玉大学 名誉教授(動物学)

木村昌由美 東京大学 国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構 特任教授(神経科学)

小林 悟 筑波大学 名誉教授(発生生物学)

西谷和彦 東北大学 名誉教授(植物生理学)

金子律子 東洋大学生命科学部教授(生物)

牧 雅之 東北大学学術資源研究公開センター植物園 園長(植物学)

酒井 敏 静岡県立大学 副学長(地学)

Simon Wallis 東京大学大学院 理学系研究科 教授(地学)

西原明法 東京科学大学 超スマート社会卓越教育院 統括アドバイザー(電子工学・教育工学)

浅田 稔 大阪国際工科専門職大学 副学長(ロボット学)

西成活裕 東京大学大学院 工学系研究科 教授(数理物理学・工学)

合原一幸 東京大学特別教授室 特別教授(数理工学)

西浦廉政 北海道大学 名誉教授(応用数学)

福井健一 関西大学 ビジネスデータサイエンス学部 教授(情報科学)

# 審査の流れ

## 1 地方審査 期間 9月～10月

### 募集分野 物理・化学・生物・地学・広領域

9月から10月にかけて、中央予備審査に進む作品が選定される地方審査(都道府県大会)が行われます。「物理・化学・生物・地学・広領域」分野の研究作品は、地方審査に応募してください。

各地方審査によって、募集要項が異なります。公式ホームページの「地方審査問い合わせ先」でご確認ください。

#### 応募方法

公式ホームページ上の出品票または、この「応募要項」10ページの出品票に必要事項を記入し、作品に添付してご応募ください。

#### 送付先など

作品の送り先は4ページの「各都道府県 地方審査 問い合わせ」や、読売新聞の各地域版、公式ホームページの地方審査問い合わせ先をご確認ください。

※応募先は、学校が所在する都道府県となります。  
※東京都審査は、web登録が必要となります。詳しくは10ページ下部をご覧ください。  
※ISEF出場を目指す研究作品は、7ページもご覧ください。

都道府県ごとに中央予備審査に進む代表作品を、原則として中学の部、高校の部で各3点決めます。

ただし北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡は各6点です。審査結果は読売新聞の各地域版で発表します。

## 中央予備審査に向けた登録

地方審査を通過し、都道府県代表に選ばれた作品は、中央予備審査前に下記の登録作業・研究レポートの提出を行って下さい。

- ① 「研究レポート規定」に従った研究レポートを用意してください(地方審査の形式と異なる場合があります)。
- ② 公式ホームページから「中央予備審査登録フォーム」に必要事項を入力し、研究レポートを郵送してください。

## 3 中央予備審査 期間 11月21日(土)・22日(日)

審査委員が分野ごとに審査を行い、中央最終審査に進む中学・高校各20点と、入選2等、3等の作品を決定します。審査結果は、マイページで通知します。



第69回大会中央予備審査会の様子

## 4 中央最終審査

対面審査 12月16日(水)・17日(木)

### 表彰式 12月18日(金)

東京国際交流館プラザ平成(東京・江東区)で開催。中央予備審査を通過した研究作品40点について、その研究者と指導教諭が審査会に参加し、審査員が直接研究者に質問する対面審査を行います。

各作品には展示ブースが用意されます。研究者は自分の作品をブースに展示し、プレゼンテーションや質疑応答を行います。その際、指導教諭は審査員の質問に答えたり、研究者に助言を与えたりすることはできません。

審査結果は、12月18日の表彰式で発表し、翌日の読売新聞全国版に掲載する予定です。

※展示ブースの詳細は、マイページを通して、審査対象者にお知らせいたします。



中央最終審査会(対面審査)の様子

## 2 事前審査

### 募集分野 情報・技術、応用数学

「情報・技術、応用数学」の作品は、地方審査(都道府県大会)を行わず、中央予備審査に進む作品を選定する事前審査を行います。

#### 応募方法

- ① 公式ホームページ内の「情報・技術、応用数学用応募フォーム」に必要事項を入力し、登録を行ってください。
- ② 入力後、応募フォームに記入したE-mailアドレスに登録完了メールが送られてきます。登録完了メールに記載されているID、PASSを用いて、マイページへログインしてください。  
※ID、PASSはなくさないよう保管してください。
- ③ ログイン後に、マイページから研究レポートをアップロードしてください。  
※研究レポートは、「研究レポート規定」に従い作成してください。
- ④ 研究レポートをプリントアウトし、出品票と共に下記事務局まで郵送してください。

#### 送付先

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1  
読売新聞東京本社社会貢献事業室 日本学生科学賞事務局  
TEL 03-3216-8598

#### 受付期間

2026年8月31日(月)～10月27日(火)

#### 注意

- 研究の際、表計算ソフトを使用したというだけでは、この分野の対象にはなりません。
- 明らかに他分野(物理・化学・生物・地学)の作品は審査できかねます。地方審査にご応募下さい。
- 審査結果はマイページでお知らせします。郵送での結果通知は行いません。

## 国際大会(ISEF)への代表出場

2027年5月に開催される ISEF2027へ日本代表として出場します。

※詳細は7ページ

## 各都道府県 地方審査 問い合わせ

	問い合わせ先	郵便番号	住所	電話番号
北海道	読売新聞北海道支社 総務部	060-8656	札幌市中央区北4条西4丁目1-8	011-242-5630
青森	読売新聞 青森支局	030-0801	青森市新町2-2-4 青森新町二丁目ビル 6階	017-773-2121
岩手	読売新聞 盛岡支局	020-0015	盛岡市本町通2-3-2	019-653-1441
宮城	読売新聞 東北総局	980-0021	仙台市青葉区中央2-11-18 T-PLUS仙台広瀬通2階	022-222-4121
秋田	読売新聞 秋田支局	010-0951	秋田市山王6-10-9 猿田興業ビル3階	018-824-2211
山形	読売新聞 山形支局	990-9543	山形市松山3-14-69 エフエム山形2階	023-624-2121
福島	読売新聞 福島支局	960-8063	福島市柳町4-29	024-523-1204
茨城	茨城県教育庁 学校教育部 義務教育課	310-0852	水戸市笠原町978-6	029-301-5226
栃木	読売新聞 宇都宮支局	320-0822	宇都宮市河原町1-4 S&Group第二ビル 2階	028-638-4311
群馬	読売新聞 前橋支局	371-0026	前橋市大手町3-7-1	027-232-4311
埼玉	埼玉大学教育学部附属小学校 門脇玄明教諭	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44	048-833-6291
千葉	千葉県総合教育センター	261-0014	千葉市美浜区若葉2-13	043-276-1184
東京	読売新聞東京本社 社会貢献事業室 日本学生科学賞事務局	100-8055	千代田区大手町1-7-1	03-3216-8598
神奈川	横浜市立みたま台中学校 加賀裕子教諭	227-0047	横浜市青葉区みたま台30	045-971-6431
新潟	読売新聞 新潟支局	951-8551	新潟市中央区白山浦1-336	025-233-5111
富山	富山県教育会 事務局	930-0018	富山市千歳町1-5-1	076-432-3624
石川	石川県教員総合研修センター	921-8153	金沢市高尾町ウ31-1	076-298-3515
福井	読売新聞 福井支局	910-0005	福井市大手3-14-9 商工中金ビル5階	0776-22-5220
山梨	読売新聞 甲府支局	400-0034	甲府市宝1-9-1	055-235-2222
長野	長野県教育委員会事務局学びの改革支援課義務教育指導係	380-8570	長野市南長野幅下692-2	026-235-7434
岐阜	岐阜県教育委員会 義務教育課 小中教科教育係	500-8570	岐阜市藪田南2丁目1番1号	058-272-1111
静岡	静岡県教育委員会 義務教育課 指導班	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3141
愛知	読売新聞中部支社 総務部事業課	460-8470	名古屋市中区栄1-2-1	052-211-0083
三重	読売新聞 津支局	514-0009	津市羽所町388 津三交ビルディング3階	059-225-4321
滋賀	読売新聞 大津支局	520-0047	大津市浜大津2-1-36 大津フコク生命ビル2階	077-522-6691
京都	読売新聞 京都総局	604-8162	京都市中京区烏丸通六角下 七観音町630	075-231-1111
大阪	大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課	540-8571	大阪市中央区大手前2丁目	06-6941-0351
兵庫	兵庫県教育委員会 高校教育課	658-0081	神戸市東灘区田中町5-3-23	078-341-7711
奈良	読売新聞 奈良支局	630-8227	奈良市林小路町8-1 ニッセイ奈良若草ビル3階	0742-22-2001
和歌山	読売新聞 和歌山支局	640-8241	和歌山市雑賀屋町東ノ丁16	073-422-1144
鳥取	読売新聞 鳥取支局	680-0846	鳥取市扇町7鳥取フコク生命駅前ビル3階	0857-22-2196
島根	読売新聞 松江支局	690-0886	松江市母衣町95-1	0852-23-1411
岡山	読売新聞 岡山支局	700-0822	岡山市北区表町1-6-20 岡山フコク生命表町ビル2階	086-224-3377
広島	広島県立教育センター 教科教育部	739-0144	東広島市八本松南1-2-1	082-428-1149
山口	山口県教育庁 高校教育課 普通教育班	753-8501	山口市滝町1-1	083-933-4627
徳島	読売新聞 徳島支局	770-0831	徳島市寺島本町西1-7-1 徳島駅前171ビル2階	088-622-3155
香川	読売新聞 高松総局	760-0017	高松市番町1-6-1 両備高松ビル8階	087-822-1300
愛媛	読売新聞 松山支局	790-0003	松山市三番町4-9-12 松山電算ビル3階	089-933-4300
高知	読売新聞 高知支局	780-0870	高知市本町1丁目1-3 朝日生命高知本町ビル6階	088-825-2220
福岡	読売新聞西部本社 事業推進室 事業部	810-8581	福岡市中央区赤坂1-16-5	092-715-6071
佐賀	佐賀県みやき町立三根西小学校 澁谷健校長	840-1105	みやき町寄人1385	0942-96-3040
長崎	読売新聞 長崎支局	850-0862	長崎市出島町11-1	095-823-0121
熊本	読売新聞 熊本支局	862-0976	熊本市中央区九品寺2-1-24 九品寺ビル	096-363-1177
大分	読売新聞 大分支局	870-0046	大分市荷揚町3-1-5階	097-534-1621
宮崎	読売新聞 宮崎支局	880-0806	宮崎市広島1-18-7 大同生命宮崎ビル3階	0985-25-4254
鹿児島	読売新聞 鹿児島支局	892-0844	鹿児島市山之口町1-10 鹿児島中央ビルディング9階	099-222-7370
沖縄	(高校)沖縄県立具志川高校 兼島達也教諭	904-2236	うるま市喜仲3-28-1	098-973-1213
沖縄	(中学)糸満市立三和中学校 三浦浩之教諭	901-0336	糸満市真壁519	098-997-2014

# 審査の流れ

## 応募時の注意事項

- 障がいなどが理由で、応募登録や審査に不安がある人は事務局にご相談ください。
- 「高校生・高専生科学技術チャレンジ」(JSEC)は、日本学生科学賞とともに国際学生科学技術フェア(ISEF)と提携しているため、同じ研究作品を重複して応募することはできません。また、同じ学校から異なる作品を日本学生科学賞とJSECに応募した場合、同じ研究者が含まれている場合は、二重応募とみなします。
- 中学の部では「自然科学観察コンクール」に同じ研究作品を重複して応募することはできません。
- ISEF派遣対象は、高校の部と中学3年生の個人研究または2~3人の共同研究になります。4人以上で進めた研究は対象外になりますのでご注意ください。
- 2026年1月以降のデータを含む作品に限ります。継続研究の場合、前年までの研究と、新しく研究した部分を分けた上で、研究期間が明確に分かるようにご記入ください。
- 出品にあたって、文献、論文、新聞・雑誌の記事、テレビなどの映像番組、インターネット、講演会、インタビューなど第三者の研究・著作物を参考している場合は、参考資料として必ず明記してください。研究に虚偽がある場合、また第三者の著作権やその他の権利を侵害するものであることが確認された場合、主催者協議の上、審査対象外としたり、審査終了後でも賞を取り消したりすることがあります。
- 日本学生科学賞では研究レポートの作成にあたり、生成AI(人工知能)の使用について一律に禁止はしません。ただし、使用する場合は「日本学生科学賞における生成AIの使用ルール」を徹底し、レポートを作成してください。
- 中学生や高校生が研究活動を行う際に押さえておくべき基本事項をまとめたウェブサイト「中等教育向け研究倫理教材:基礎編(一般財団法人公正研究推進協会 作成)」を、応募に際して確認してください。
- 特許等の出願・登録を検討している場合は、研究発表前に行ってください。なるべく早めに独立行政法人 工業所有権情報・研修館 産業財産権相談窓口(03-3581-1101、内2121)にご相談ください。
- 中央予備審査を通過した研究作品ならびに中央最終審査や表彰式の様子を撮影した画像や動画、受賞後に読売新聞社が取材した画像を含む紙面等は、主催者が本賞のPRをはじめとする各種媒体に自由に使用できるものとします。
- ご応募いただいた個人情報は受賞者への連絡、研究作品に関する問い合わせ、取材、受賞者発表および賞状などの送付、また読売新聞社主催の関連イベントの案内などで使用します。
- 共同研究の場合、研究に関わった人の名前は「共同研究者」として必ず全員の名前を記載してください。
- 参考文献がある場合には明記してください。

2ページの「研究をはじめの前に」も合わせてご確認ください。

## 研究レポート規定(抜粋)

- 右記の指定項目に沿って、5000~8000字程度(指定項目⑦、⑧を除く)にまとめてください。用紙サイズA4、横書きとします。※図表のクレジット表記や参考文献・謝辞は、文字数に含みません。
- 右記の指定項目の③研究方法、④結果、⑤考察は実験ごとにまとめても構いません。図表には対応番号をふり、文中の適切な位置に挿入してください。
- 研究レポートをPDFで保存し、公式ホームページ上のフォームから登録してください。登録後、レポートをプリントアウトし、出品票と共に事務局まで郵送してください。プリントアウトの際は**両面印刷**とし、クリップで留めてください。
- レポート以外の参考資料(研究論文、実験ノートなど)や動画などはCD-R、USBなどの記録メディアにコピーして事務局までお送りください。
- レポートや記録メディアの返却はいたしません。
- 標本(液浸標本等含む)、装置、模型などの実物提出は受け付けません。
- 公式ホームページ上の登録フォームでアップロード可能なレポート(PDF)の容量は30MBまでです。

### 指定項目

- 1 要旨、概要
- 2 問題提起、研究目的
- 3 研究方法
- 4 結果
- 5 考察
- 6 結論(課題)
- 7 参考文献
- 8 謝辞

実験ごとに③、④、⑤をまとめて可

※詳細は、公式ホームページをご確認ください。

※手書きの研究作品でも応募は可能です。地方審査をポスター発表で通過した場合には、A4サイズでPDFなどの読みやすい形に加工してご応募ください。

## 日本学生科学賞における生成AIの使用ルールについて

日本学生科学賞では研究レポート作成にあたり、生成AI(人工知能)の使用について一律に禁止はしません。ただし、使用する場合は以下のルールを徹底し、レポートの作成、提出をお願いします。

- 生成AIを使用した場合は、レポートの最後に、生成AIの名称、バージョン(有料版/無料版を含む)、全ての使用した箇所、どのように使用したかについて必ず記載してください。
  - 審査の過程で、使用箇所や方法について審査委員や事務局が質問する場合があります。
- プロンプト(AIへの指示文)を必ず手元に保存してください。審査の過程で、プロンプトの開示、共有機能がある場合は共有機能での提出を求める場合があります。
- 研究において、創造活動の主体は研究者自身であるよう心掛けてください。

例

本研究では、以下の用途において生成AI(ChatXX、XX-4、ABC社)を利用した:

- 考察①の生物○○に関する知識
  - 参考文献の要約の補助
  - 内容構成案のアイデア出し
- 最終的な内容の確認・修正は研究者自身が行った。

## 人を対象とした研究に関する注意事項

研究する生徒が直接、自分や他人の体を対象としたり、データやサンプル、個人情報を取得したりする研究には特に注意が必要です。

### 人を対象とした研究の例



#### 身体活動にかかわる研究

(体の動きを調べたり、特定の食物を摂取させたりする研究など)



#### 意識調査やアンケート、テストを行う研究



#### 研究する生徒本人を対象とした研究



#### 生徒が開発した器具やアプリケーションなどを本人以外が被験する研究



#### 個人の特定が可能なデータを閲覧する研究



研究が人に及ぼす影響や安全性、人権の尊重などについて検討し、研究開始前に指導教諭および学校長の承認を得た上で行ってください。指導教諭や学校としての判断が難しい場合は、研究計画を変更・中止することも検討してください。不明な点は事前に日本学生科学賞事務局にご相談ください。内容によっては日本学生科学賞として審査できないこともあります。



人を対象とした研究には対象者の同意が必要です。対象者が未成年の場合は対象者の保護者の同意も得てください。研究対象者が生徒自身の場合、事前に保護者の承諾を得てください。



研究データに個人情報が含まれる場合は、個人が特定されないよう匿名化してください。個人情報には氏名や性別、年齢、住所、電話番号だけでなく、外見なども含まれます。

※研究する生徒が被験者に医療行為を行う研究は認められません。

研究倫理については一般財団法人公正研究推進協会 (APRIN) のホームページをご覧ください。



公式ホームページ

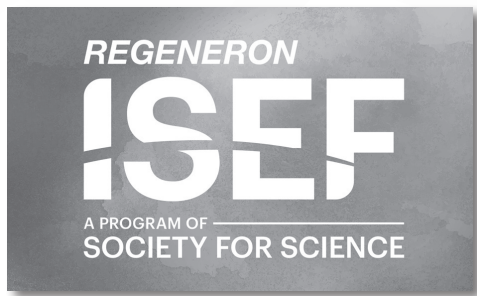
<https://www.aprin.or.jp/e-learning/rse>



一般財団法人公正研究推進協会 (APRIN) では、次代の学術活動を担う若い世代に向けた教材として「中等教育における研究倫理:基礎編」および「中等教育における研究倫理:実践編」を作成しています。研究を始める前に、「研究活動の適切な進め方」を学びましょう。

# ISEF (アイセフ) 出場について

日本代表として世界に挑戦しよう!



**ISEFとは** 【International Science and Engineering Fair】  
=国際学生科学技術フェア

毎年5月にアメリカで開催される世界最大の学生科学コンテストで、例年、世界約60の国や地域から約1700人が出場。日本学生科学賞の代表は、2013年に日本初の部門最優秀賞を受賞するなど、高い評価を受けています。

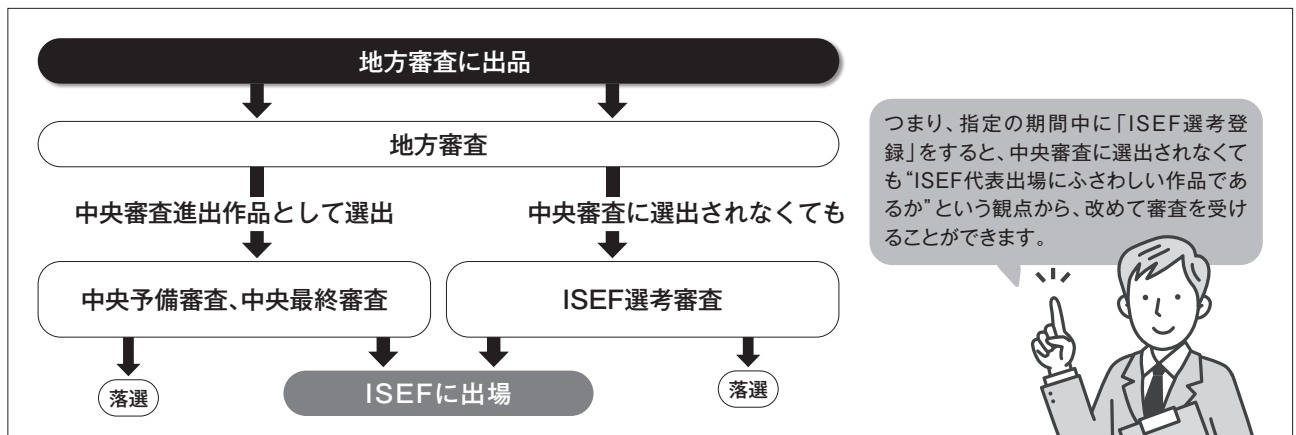
※ISEF2026はアリゾナ州フェニックスで開催、ISEF2027はカリフォルニア州ロサンゼルスで開催する予定です。

## 1 ISEF2027への出場作品 選考過程

**対象作品** 高校の部の個人研究または2~3人で行った共同研究。

※中学3年生も対象です。 ※代表生徒1人の出場費は主催者が負担します。

**選考過程** 2パターンあります。



## 2 「ISEF選考登録」のご案内

**登録期間** 2026年10月14日(水)~11月9日(月) ※郵送は11月9日(月)必着

**登録方法** **STEP1** 各都道府県の地方審査に応募してください。 ※地方審査への応募が確認できなかった場合は失格となります。

**STEP2** 上記の登録期間中に、日本学生科学賞公式ホームページから「ISEF選考登録」フォームに入力し、研究レポートをアップロードしてください。登録後、印刷した出品票と研究レポートを日本学生科学賞事務局(裏表紙参照)に郵送してください。

## 3 ISEF研修スケジュール

日本学生科学賞では、日本代表としてISEFに出場するにあたり、研究を国際レベルに高めるため、専門家の先生(メンター)による助言や英語力の強化などのサポートを行います。大舞台に挑むまでの研修制度をご紹介します。

### 12月 | 説明会

出場者、指導教諭、メンターに就任する中央審査委員(総合委員)が集まり、顔合わせを行います。指導方針を話し合います。

### 1月~4月 | ISEF研修(複数回)

- 過去の出場者の経験談
- Abstract(概要)や発表資料の作成
- 本番を想定した発表や質疑応答練習
- ネイティブの講師から英語でのプレゼンテーション講座 ほか

### 5月 | 本番

本番直前まで練習を重ね、自信を持って本番に臨みます!

## 4 ISEFを目指す前に

国際学生科学技術フェア (ISEF) は、実験方法などに関する規則とガイドラインを独自に設けています。ISEFに代表出場する研究作品は、ISEFの規則とガイドラインを遵守する必要があります。抵触する場合は、出場資格を得られない可能性があります。

※ISEF2026国際規則とガイドラインを基に作成しています。変更になっている場合もあります。

### 研究倫理

研究において、創造活動の主体は研究者自身であるよう心掛けてください。特にAIを使用する場合は、適切な引用をした上で、研究者自身の言葉で発表することが求められます。

また、機密情報、特許、著作権、その他の知的財産権を尊重する必要があります。未発表のデータ、方法、または結果は許可なく使用してはならず、引用した部分があれば、すべて明記してください。不正なデータや盗用、不適切なAIの使用など、研究者自身の研究ではないものは発表できません。研究の内容によっては、学校内または大学等の研究機関に設けられた研究倫理審査委員会 (IRB) の承認を受ける必要があります。

※IRBは親族・指導教諭以外の教諭、学校管理者、医学・心理学等の知識のある専門家など3名以上で構成され、リスク評価を行います。

### 出場資格

- 中学3年生から高校3年生およびそれと同等とされる学年であること (2026年12月時点)。
- ISEFに出場する年の5月1日時点で20歳に達していないこと。
- 複数の研究で参加することはできません。
- 共同研究の場合、3名以内でチームが構成されていること。※全員が出場資格を満たす必要があります。
- 大学等の研究機関と行う共同研究であっても構いません。
- 応募する研究内容は研究者自身が行った部分で完結している必要があります。

## 5 研究に関する規則とガイドラインの例

国際学生科学技術フェア (ISEF) は、実験方法などに関する規則とガイドラインを独自に設けています。ISEFに代表出場する研究作品は、ISEFの規則とガイドラインを遵守する必要があります。抵触する場合は、出場資格を得られない可能性があります。

### 人が関係する研究

〔例〕 身体活動、物質の摂取、アンケートなど

- 研究対象者とのあらゆるやり取り (例: 募集、データ収集) を開始する前に、研究倫理審査委員会 (IRB) による事前審査と承認が必要です。
- 研究の開始前に、同意書を取得する必要があります。

### 脊椎動物を対象とする研究

〔例〕 哺乳類、魚類、爬虫類など (孵化時、出生時含む)

- 観察研究を除き、脊椎動物に関わるすべての研究は、有資格科学者 (該当分野の博士号、専門職学位相当) が直接監督しなければなりません。
- 瞬間的または軽微な痛みや苦痛 (例: 注射など) を超える負荷を動物に与える研究プロジェクトは禁止されています。

### 潜在的に危険性のある生物・生物因子を扱う研究

〔例〕 微生物、遺伝子組み換え、血液など

- 実験開始前に、日本学生科学賞事務局までご連絡ください。
- 潜在的に危険な生物因子 (バイオセーフティレベル1の生物を含む) の培養を伴う実験は、家庭環境では禁止されています。
- バイオセーフティレベル2以上の研究をする場合は、必ず有資格科学者の指導を受けてください。

### 危険な化学物質や装置、作業が含まれる研究

危険な化学物質や装置、作業が含まれる研究はできません。

〔例〕 処方薬、酒、火器、ドローン、放射性物質など

- 実験に先立ち、指導者または有資格科学者と連携してリスク評価を実施しなければなりません。
- 規制対象物質は、地方自治体や国の法律に従って入手および使用しなければなりません。

ご不明な点がございましたら、研究を始める前に、日本学生科学賞事務局までご連絡ください。

ISEFの国際規則とガイドライン (英語版) は、ISEFのホームページでご覧いただけます。

 <https://www.societyforscience.org/isef/>

# 受賞作品の紹介

第69回日本学生科学賞の受賞作品の中から、内閣総理大臣賞に輝いた2作品をご紹介します。

先輩たちがどのような着眼点でテーマを見つけ、どのような研究で栄冠をつかんだのか、ぜひ参考にしてください。

中学  
の部

内閣総理大臣賞

## 肉は『ジュー』と焼けるのか

2026年1月20日付 読売新聞紙面より



「色々なモノの振動機を作りたい」と夢を語る、東京都田舎の世谷隆平君

肉を焼くとき「ジュー」という擬音語を使うけど、本当は「ジュー」という音が出てくる。そんな素朴な疑問をきっかけに、自宅のホットプレートで肉や野菜を焼いて録音し、自分の声と比較した。料理をしたり、お菓子を作ったりするともある阿部さん。夏休みに「寝転びながら料理過程を録音して、50音や濁音のシメシメな合計106音を自分の声で収録した。

解析ソフトで周波数を分析すると、牛も肉を焼いたときの音は「ジュ、ハイコンは「ジュ」や「ジョ」と似ていることが分かった。脂の多い肉は焼くと脂が溶け出して、高い音が出ることも判明した。

## 肉焼く音 擬音語に変換

文字変換するソフトを「プロクランシク」した。①ホットプレートに置いた時の瞬間音の残っている最中の継続音の残っている最中の余韻の3要素に分け、それぞれ周波数から最も近い擬音語を自動的に当てはめる。例えば、ベーコンの鳴き声は「ジュウ」で、「ウワウ」という具合だ。生成AI（人工知能）を使った。（科学部 山路大太）

※画像は阿部さん提供

瞬間音	継続音	余韻
ジョ +	チ +	ウワウ
チュ +	ズ +	イイイ
シャ +	ツ +	イイイ



「飼育に苦労した」と話す石橋さん（中央）ら焼津中央高のクワガタ班

子どもたちの人気者クワガタムシ。幼虫のオスとメスを見分ける方法として知られるのが、おなかに1対ある丸い「メス斑」だ。卵巣のもとになる組織とされていたが、オスにもまれに持つ個体があり、正体は不明だった。

クワガタ班の1、2年生3人は、木材を食べる幼虫が、消化を助ける酵母を体内に持っていることに注目。メス斑が、卵巣ではなく、酵母を子孫に受け渡すために重要な組織である可能性を観察で裏付けた。

クワガタの幼虫100匹以上を飼育し、実験に用いたメス斑を解剖することで、消化管にくっついた組織だと判明した。DNAなどを分析すると、木材の消化を助ける酵母が検出された。成虫のメスは酵母を保持する器官「菌嚢」を持っていることが知られていた。菌嚢から子孫のメス斑に酵母が代々受け継がれている可

## 「酵母」受け継ぐ仕組み解明

クワガタムシの幼虫のメス斑の役割は？  
メス斑で木材の消化を助ける酵母を保持し、子孫に受け渡す

クワガタの幼虫 さなぎになるときに、周囲の土壁に糞をすりつける

クワガタ班が考える酵母伝播のサイクル

メスの幼虫のおなかに見られる「メス斑」

メスの成虫から幼虫に酵母が移る

成虫になると壁から酵母が回収され、菌嚢に入る

※写真は焼津中央高提供

これらの結果は、図鑑の記載を書き換える可能性もあるという。2年生の石橋桐磨さん(17)は「研究に没頭して、結果が出るの不安になったこともあったが、新たな成果が出てほしい」と喜んだ。今後は、酵母がなぜメス斑に集まるのかを詳しく分析していく計画だ。（科学部 加藤進也）

高校  
の部

内閣総理大臣賞

## 「クワガタムシ幼虫のメス斑とは？」

2026年1月20日付 読売新聞紙面より

もっと過去の研究を知りたい場合は…

公式ホームページでは、過去に受賞した作品名・学校名などを検索できるほか、要項を含めた詳しい本賞の内容がご覧いただけます。

▶公式ホームページ

<https://event.yomiuri.co.jp/jssa/>



第55回以降の入賞・入選（一部除く）作品は、お茶の水女子大学「理科自由研究データベース」でご覧いただけます。

▶お茶の水女子大学「理科自由研究データベース」

<http://sec-db.cf.ocha.ac.jp/>



# 第70回 日本学生科学賞 出品票

※整理番号
※賞別
都道府県名
<b>個人研究 ・ 共同研究</b>

この出品票に必要な事項を記入し、**作品に必ず添付**してください。

科目は中央審査で必要となりますので、必ず一分野選んでください。  
広領域を選択する方は、広領域の中でも( )内ですれかの近い分野に一つ○をつけてください。

<b>中学 / 高校</b>	<b>物理 / 化学 / 生物 / 地学 / 広領域</b> <small>(物理 / 化学 / 生物 / 地学 / 情報・技術 / 応用数学)</small>	<b>情報・技術 / 応用数学</b>
----------------	---	---------------------

ふりがな	
学校名 <small>(省略不可)</small>	
学校住所 〒	TEL
	FAX
ふりがな	緊急連絡先 電話番号
指導教諭氏名	e-mail
※指導者が校外の場合は学校代表者を記入してください。 ※審査に関する重要なお知らせを、メールでお送りします。	

## 指導者が上記の学校外の場合の記入欄

指導者所属団体(学校名など)	TEL
ふりがな	e-mail
指導者氏名	
※審査に関する重要なお知らせを、メールでお送りします。	

ふりがな	(サブタイトル) ※必ずしも必要ではありません。	出品物 この研究を構成しているものの数量を記入してください。
研究作品名		
※作品名は15字程度、長い場合はサブタイトルにしてください。		
個人研究	ふりがな	学年( 年)
	研究者氏名	性別(男・女)
共同研究	ふりがな	CD・DVD など
	グループ名	
	研究人数 人	ふりがな 代表者氏名
※共同研究は必ずグループ名をつけてください。 ※学校名は省略してください。		
※リストや新聞表記で使います。 ※代表者以外の氏名は別途添付してください。		

## 研究作品の概要をそれぞれ120文字程度で紹介してください。

<b>動機や背景 もしくは目的</b> <small>(なぜこの研究を行ったのか)</small>	
<b>研究方法</b> <small>(なぜその方法を採用したか)</small>	
<b>研究結果</b> <small>(どのような結果になったか)</small>	
<b>まとめ・結論</b> <small>(結果から言えること・わかったこと)</small>	
<b>展望</b> <small>(結果から、この研究はどのように使えるか。あるいはどのような場面に応用できそうか。)</small>	

東京都審査に応募の場合

- ①公式ホームページ上で「東京都審査応募フォーム」から必要事項を入力してください。
- ②登録完了後に表示される出品票を印刷して作品に添付して郵送ください。  
※学校単位で多数応募される場合、パソコン環境によりフォームに登録できない場合などは、事務局にご連絡いただいたうえで、このページの出品票を使用してください。

〈キリトリ線〉

# 日本学生科学賞事務局

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

読売新聞東京本社 社会貢献事業室

Tel: 03-3216-8598 (平日10時~17時)

E-mail: [jssa@yomiuri.com](mailto:jssa@yomiuri.com)

公式ホームページ

<https://event.yomiuri.co.jp/jssa/>



---

地方審査の詳細は、ホームページの「問い合わせ」でご確認ください。